中国一人っ子世代の親子・親族関係①
――一人っ子世代の出産意欲・行動及びその規定要因――

施　利平（明治大学）

中国政府は2016年からこれまで36年間も続いた一人っ子政策を廃止して、二人っ子政策の実施に切り替えた。2016年以降に出産のイベントを迎え、第２子の出産が可能となった一人っ子世代は、果たして第２子を出産するだろうか。また、第２子を出産するか否かを規定する要因とはいかなるものだろうか。

これまでの調査では二人っ子政策が導入された2016年以降の出産数は、中国政府が当初予想した出生数より少ないことが明らかになった。中国政府統計局によると、2017年の出生数は1,723万人で、2016年より63万人減少し、2018年の出生数は1,523万人で、2017年より200万人も減少している。2019年の出生数は1,465万人で、2018年より58万人減少している。

二人の子どもの出産が可能となっているのに、出生数が逆に減少した。その理由として、近代家族的心性（愛情の対象としての子ども観）、育児・教育コストの高さ及び母親への育児責任の偏りなどあげられている（肖2014、鄭2021）。それ以外に、世代間関係も子世代の出生意欲に影響を及ぼし、親世代からの育児・経済的支援及び育児協力の意欲の有無が子世代の第２子の出産意欲を左右すると指摘されている（厳・張2021、黄2016、靳ほか2018）。さらに父系親族規範のもと、子どもを家系の継承者とみなし、とりわけ娘しかいない家庭では娘を経由して後継者を獲得しようとするニーズが強いこと、また一人っ子として親の愛情を独り占めにし、これまで家族の「only hope」（Fong2004）として育てられてきた一人っ子世代は、親世代との絆が強いため親世代からの出産要請を断りきれない傾向にあるという見方も提示されている（施2021）。一人っ子世代の出産意欲・行動を説明するには、親世代からの後継者獲得要望と一人っ子世代自身の希望とのギャップ、及びその調整プロセスに注目することが重要だと思われる。

こうした関心から、本発表は一人っ子世代の出産意欲・行動及びその規定要因を明らかにするため、親世代からの後継者獲得要望と一人っ子世代の反応及び調整プロセスに注目し、分析を行う。

また本報告で用いる調査データは、2019年と2020年に浙江省紹興市で実施したインタビュー調査データを用いる。調査対象者は浙江省紹興市在住の一人っ子世代の女性対象者（80年代と90年代生まれの既婚者で、子どもが一名以上をもつ者）、合計30名である。

参考文献

Fong, Vanessa L., 2004, *Only Hope: Coming of Age Under China's One-China Policy*, Stanford University Press.

黄英2016「当代城市青年夫婦生育意愿与生育行為探析―基于安徽省芜湖市四个社区的実地調研」重慶工商大学学報（社会科学版）第33巻第3期:99-105

靳永愛・趙夢晗・宋健2018「父母如何影響女性的二孩生育計划―来自中国城市的証拠」『人口研究』2018(5):27

施利平2021「後継者の獲得をめぐる世代間の交渉―中国の一人っ子世代の出生をめぐって」『比較家族史研究』第35号:99-131

肖索未2014「"厳母慈祖"児童抚育中的代際合作与権力関係」『社会学研究』2014(6):148-171

厳暁雨・張呂瑾2021「我国城鎮居民生育意願及其影響因素研究―基于10年文献的調査分析」『陕西学前師範学院学報』37(1):9-19

鄭楊2021「伝統と現代、独立と依頼」小池誠・施利平編著『家族のなかの世代間関係』日本経済評論社201-232

（キーワード：一人っ子世代、世代間関係、父系親族規範）

謝辞：本研究はJSPS科研費JP19K02052の助成を受けたものである。